



2017年11月1日着任

谷 中 冴 子

やなか・さえこ

生命・錯体分子科学研究領域

生体分子機能研究部門 助教



2017年11月より助教として加藤晃一グループで活動しております。私の専門はNMRを用いた生体分子の動的構造解析です。今後、生体環境に近い*in situ*における生命分子科学研究に新たに取り組み、生命分子システムの機能デザインにも挑戦していきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

覽古考新11 | 2009年

アメリカではこの数年息の長い基礎研究が段々やりにくくなってきているように思われます。アメリカではNSF、NIH、DOE、DODなど複数の機関から基礎研究に研究費が出ていますが、そのうちもっとも基礎的な研究に力を注ぐべきNSFが指向的なグループ研究に重心を移しています。もちろん公のお金を使うのですから社会の役に立つ研究にも力を入れることは必要ですが、NSFともあろうものが基礎を忘れてどうするのかというのが研究者の本音です。日本の研究費は比較的外圧の影響を受けにくいと思われていますが、それでも最近の風潮は基礎研究はともすれば実用研究に比べ軽視される傾向にあります。我が古巣分子研は世界の研究のセンターですから、役に立つ研究は当然大事ですが息の長い基礎研究もしっかりとやったださるものと期待しています。

.....

昨年は私が理論化学の研究を始めてちょうど50年、ずっと後ろを振り返らずに研究に邁進していました。最近理論化学がどのように発展してきたかを知らない世代が多くなってきましたので、歴史を継承してもらうためにもこの2-3年昔の話もするようにしています。そんな話に出会った時はいやがらないで聞いてください。

分子研レターズ No.59「OBの今：京都からの便り」(2009年)

諸熊奎治(京都大学福井謙一記念研究センター リサーチリーダー) ※

※ 2017年11月に逝去されました。我々を最後まで強力に牽引して下さい感謝の念に堪えません。